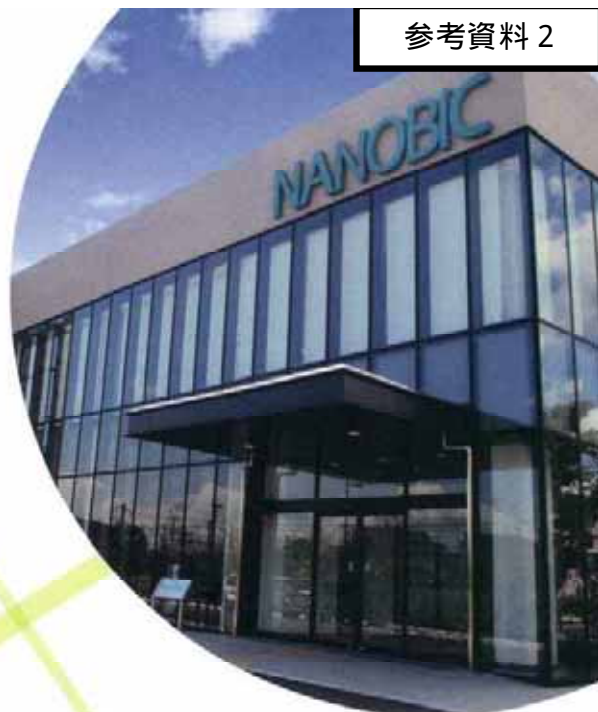


産学官の連携による創造的研究開発拠点

新川崎・創造のもり



“産業集積拠点” 川崎市～連携と先端技術開発の

川崎市は、首都圏の中心部に位置し、優れた技術を持つ中小企業が集積するとともに、京浜工業地帯の中核を担う、日本有数の製造業集積都市です。さらに、都市型工業地域の特色を生かした試作開発・商品開発を担う知識集約型・高付加価値型の産業構造への転換も進み、200を超える研究開発機関が集積する研究開発都市でもあります。

キャノン・風玉川事業所

マイコンシティ

エレクトロニクス・情報・通信関連産業等の集積を目指した国際的な研究開発拠点

明治大学地域産学連携研究センター

明治大学の技術シーズ・知的資源を有効活用し、新技術・新事業の創出、地域中小企業の育成等を行う地域連携の交流促進拠点

KSP (かながわサイエンスパーク)

日本初の都市型サイエンスパークであり、規模は日本最大級(敷地面積約55,000㎡、就業者数約4,500名)

THINK (テクノハブイノベーション川崎)

JFEグループの既存研究開発施設を活用して、新事業の創出、新分野への進出支援や産学連携共同研究の実現を目指すサイエンスパーク

横浜市

新川崎地区

産学官連携による新産業の創出を目指す先端技術の集積拠点／平成25年10月「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に追加指定

新川崎地区は、D地区(創造のもり)への企業・大学の進出のほか、新川崎A地区に研究開発型のものづくり企業が進出するなど、1万7,000人余の従業者が集積していると推計されています。

- | | |
|----------------------|---|
| A地区
4.3ha | 高度な技術力をもつ製造業の集積ゾーン |
| B地区
3.9ha | 商業・業務、都市型居住ゾーン |
| C地区
2.0ha | 都市型居住ゾーン |
| D地区
8.1ha | 研究開発・交流ゾーン
・新川崎・創造のもり |
| E地区
4.8ha | 産業創出・育成ゾーン
・バイオニア街
・ユニキャリア街(平成27年度竣工予定) |
| F地区
10.1ha | 都市型居住等の複合ゾーン
・小学校等 |



新川崎・創造のもりの概要

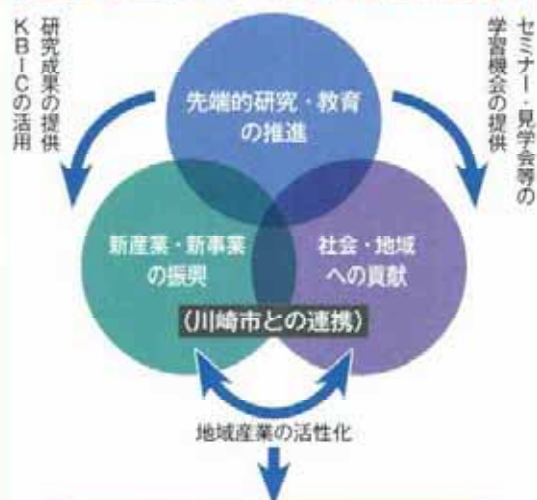
新川崎・創造のもりは、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と、次世代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しています。

これまでの経緯

平成11年2月	「新川崎・創造のもり計画」の策定
平成11年2月	「新川崎・創造のもり計画」の推進への協力に関する川崎市と慶應義塾の協定締結
平成12年7月	【第1期事業】 慶應義塾大学の先導的研究施設「K ² タウンキャンパス」の開設
平成15年1月	【第2期事業】 ベンチャービジネス創出拠点「かわさき新産業創造センター（KBIC）」の開設
平成17年1月	新川崎地区・地区計画の策定
平成20年9月	新川崎・創造のもり第3期事業用地 土地利用方針の策定
平成21年1月	「4大学ナノ・マイクロファブ리케이션コンソーシアムと川崎市との連携協力に関する基本合意」締結 4大学コンソーシアムの研究成果を地域産業の活性化に生かし、先端科学技術による世界への貢献を目指した連携協力
平成21年11月	川崎市と慶應義塾との連携・協力に関する基本協定の締結
平成22年10月	新川崎・創造のもり第3期事業地区 産学官共同研究施設整備基本計画の策定
平成24年1月	東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、川崎市による「東京大学社会連携講座の実施に関する基本協定」の締結 「省エネルギーを目指した、次世代ナノ・マイクロデバイスとシステム」をテーマとした研究を実施
平成24年4月	【第3期第1段階事業】 ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIIC」の開設
平成26年5月	【第3期第2段階事業】 産学交流・研究開発施設整備基本計画策定

【第1期事業】 K²（ケイスクエア） タウンキャンパス

慶應義塾大学の先導的研究施設



産学官地域連携による研究開発拠点の形成

建物	研究棟4棟（K棟、E棟、I棟、O棟）、厚生棟1棟（K ² ハウス）
構造	鉄骨造2階建
敷地面積	約16,000㎡
建築面積	約3,150㎡
延床面積	約6,301㎡



先端研究プロジェクト（EVNO）



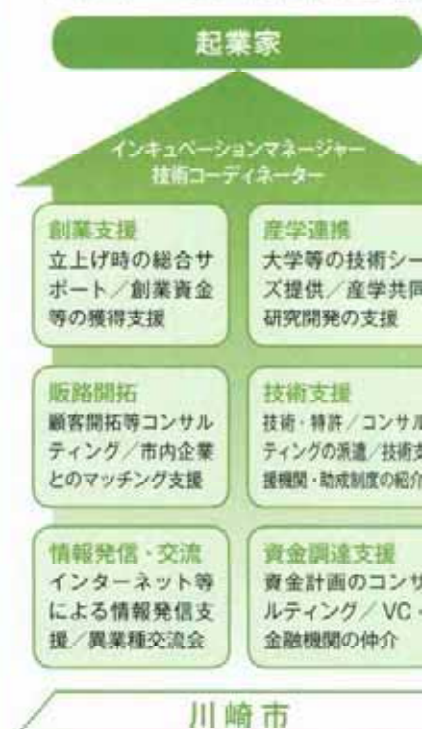
先端研究プロジェクト（実世界ハブティクス）



産学官連携（ビジネス交流会）

【第2期事業】 かわさき KBIC

ベンチャービジネス創出拠点





【第2期事業】 新産業創造センター



CADセミナー



技術講習会

建物	本館、別棟
構造	鉄骨造2階建
建築面積	本館 約1,854㎡、別棟 約113㎡
新床面積	本館 約3,428㎡、別棟 約212㎡
主な諸室	スモールオフィス (各室15㎡)、ラボ (各室30～200㎡)、打合せ・交流コーナー (106㎡)、会議室 (50㎡)、アメニティコーナー (78㎡)、ものづくり工房 (100㎡)、CAD / CAM研修室 (47㎡) 等



【第3期事業】 かわさき新産業創造センター新館 NANOBIC

ナノ・マイクロ産学官共同研究施設

- 環境・ライフサイエンス等様々な分野に应用が期待されるナノ・マイクロ技術の産学官共同研究施設
- 大型クリーンルーム(750㎡)を備え、「加工～試作～計測～評価」の一連の作業が可能
- 4大学(慶應・早稲田・東工大・東大)ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムの有する最先端の研究機器を導入し、企業等へ開放
- 4大学コンソーシアム、日本IBM等のナノ・マイクロ技術に関する世界最先端の研究機関やナノテクベンチャー企業等が集積

※ナノ・マイクロとは…ナノ(10億分の1)メートル、マイクロ(100万分の1)メートルといった「超微細な領域を表す単位」です。



クリーンルーム クラス100(約175㎡)



クリーンルーム クラス10000(約575㎡)

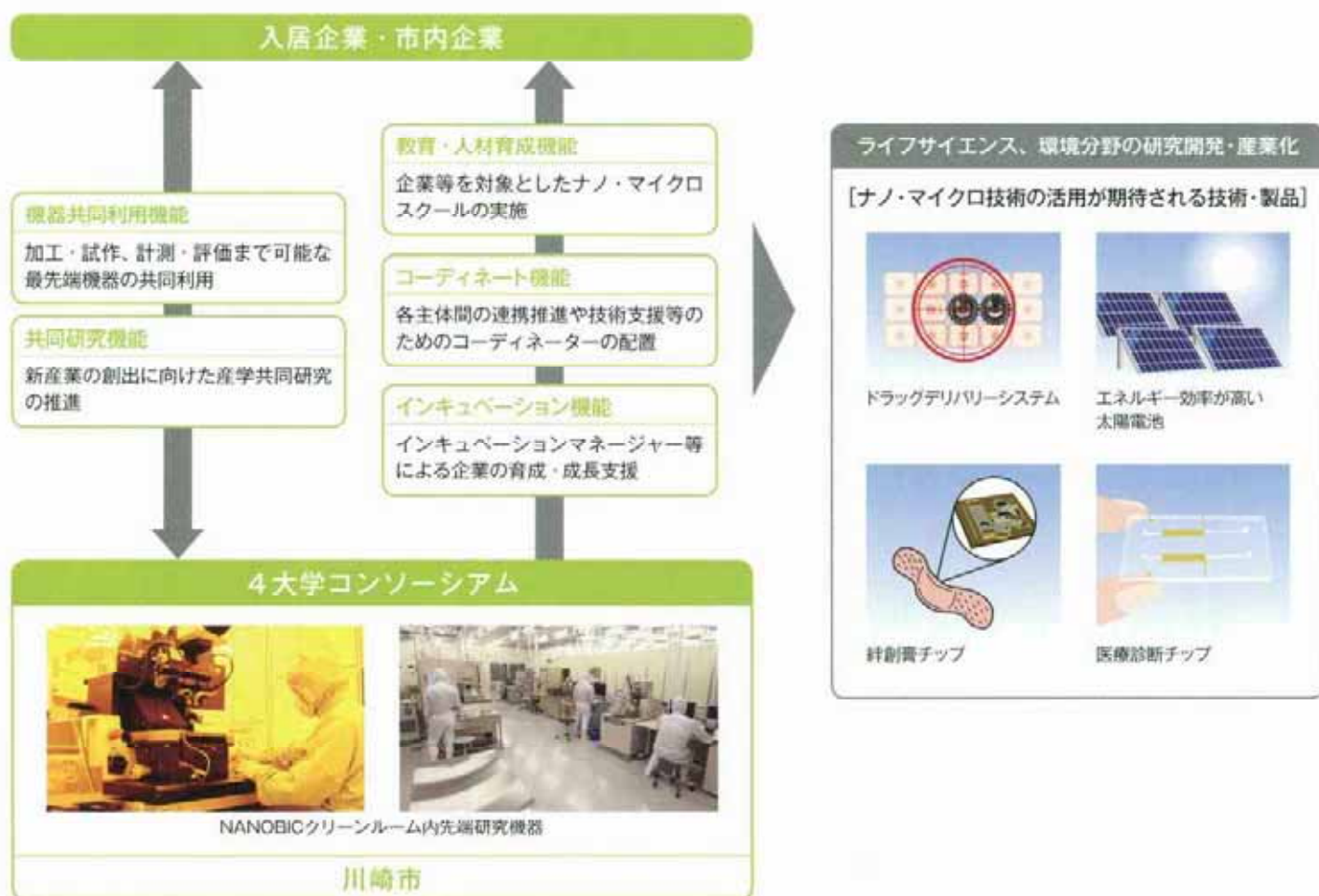
建物	研究棟、クリーンルーム棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート、一部鉄筋コンクリート造2階建
建築面積	約3,616㎡ [研究棟 約1,174㎡、クリーンルーム棟 約2,442㎡]
延床面積	約4,816㎡ [研究棟 約1,977㎡、クリーンルーム棟 約2,839㎡] ラボ (各室50㎡)、クリーンルーム (750㎡・一部クラス100)、ビジター室2室 (各室25㎡)、会議室 (100㎡)、交流コーナー、アメニティコーナー等

ナノ・マイクロ技術を核とした産学連携支援と

ナノ・マイクロ技術を活用した研究開発をトータルで支援

平成24年度にオープンしたNANOBIICでは、インキュベーション事業の他、市内中小企業等を対象としたナノ・マイクロ技術支援講座の開催、4大学が保有する最先端の機器を企業等に貸し出す機器共同利用事業を行うなど、市内事業者のものづくり技術の高度化に向けて、トータルで支援を行っています。

また、ナノ・マイクロ技術を活用した産学連携の共同研究開発に対し、「ナノ・マイクロ産学共同研究開発補助金」による支援を行っています。



創造のもりで展開されている活動

ナノテクセミナー・ナノ茶論(サロン)

「ナノテクセミナー」の定期開催、ナノ・マイクロ技術を活用したアプリケーションの開発や業界の最新動向についてディスカッションする少人数制のサイエンスカフェ「ナノ茶論」の毎月開催など、技術者・研究者の交流機会を多数設けています。

科学とあそぶ幸せな一日

創造のもりで毎年秋に開催される子ども向けの科学体験イベントです。地域の企業・大学・団体の協力により、子どもたちの科学の夢を育む実験教室や工作教室、展示などが行われ、当日は、多くの家族連れで賑わいます。





イノベーションの創出に向けた新たな施設の整備

新川崎・創造のもりの第3期第2段階事業（次期事業）として、新たに「産学交流・研究開発施設」の整備を予定しています。新たな施設は、創造のもり地区の企業・大学や周辺の企業等が集い、交流する結節点としての役割を果たし、これまで多数創出してきた“イノベーション”（科学的・工学的な発見）をさらに発展させ、我が国経済をけん引する新たな“イノベーション”の創出を目指します。



産学交流・研究開発施設の整備 計 20,000㎡規模を想定

多様な研究環境に対応

研究開発機能	約 13,500㎡
・企業・大学等の研究開発スペース	9,000㎡
・インキュベーションスペース	4,500㎡

多様な利用形態に柔軟対応する可能性豊かな空間

産学連携・交流機能	約 750㎡
・多目的会議室	
・交流スペース	

憩う空間から日常的な交流を推進

アメニティ機能	約 350㎡
・飲食スペース	
・物販スペース	

その他共用部	約 5,400㎡
エントランス、交流ラウンジ、廊下・階段、E L V・設備室等	

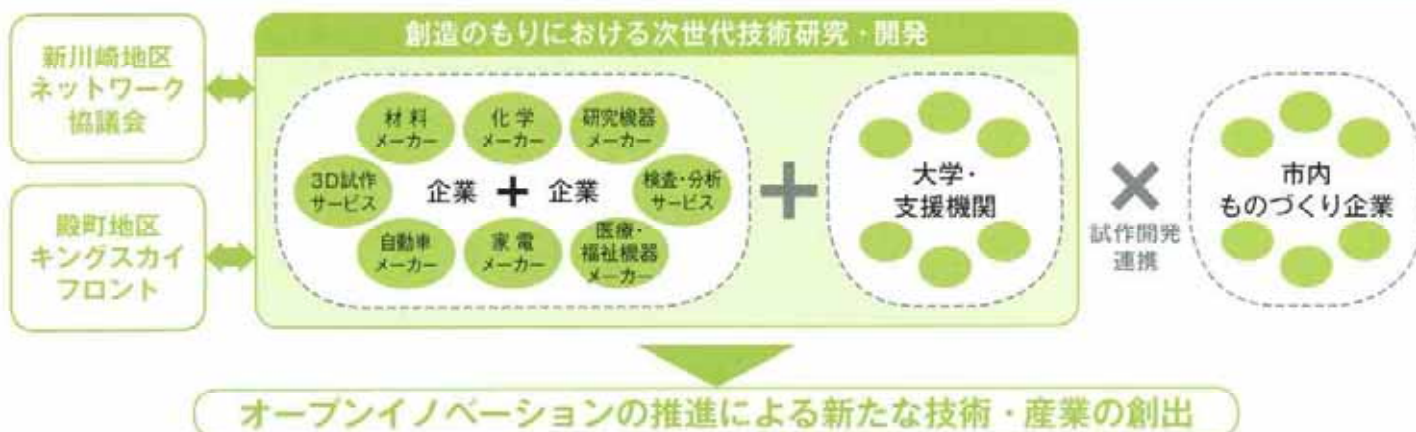
<整備スケジュール> 平成27年度 着工、平成28年度以降供用開始(予定)

オープンイノベーションの推進

新川崎・創造のもりでの研究開発活動は、企業・大学が集い、交流する世界的な研究開発拠点を参考とし、研究開発のオープン化を進めます。また、「新川崎地区ネットワーク協議会」や「殿町地区キングスカイフロント」との連携により、ライフサイエンス分野等での革新的な技術・製品、産業の創出を図るなど、「オープンイノベーション」の実現を目指します。

基盤となる共通技術での共同研究

応用技術では競争による独自開発



（ 新川崎・創造のもり アクセスのご案内 ）



〒212-0032 川崎市幸区新川崎7-7 TEL:044-587-1105 FAX:044-587-1106

お問い合わせ先

川崎市経済労働局次世代産業推進室 イノベーション推進担当
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL:044-200-2407 FAX:044-200-3920
28sozo@city.kawasaki.jp

会員企業・大学・関係機関

〈企業〉

アースグリーン株式会社
株式会社e-Gle
株式会社イクシスリサーチ
イノベティブ・デザイン合同会社
株式会社イフェクト
エイヴィエルジャパン株式会社
春日電機株式会社
共進精機株式会社
株式会社協同インターナショナル
黒田精工株式会社
SCIVAX株式会社
SCIVAXライフサイエンス株式会社
株式会社GSP研究所
株式会社ショウエイ
株式会社データサイエンスコンソーシアム
株式会社テクノロード
株式会社テックアイオーサービス
株式会社テレカルト
株式会社テレメディカ
株式会社東計電算
株式会社長津製作所
日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所
日本電産株式会社 中央モーター基礎技術研究所
バイオニア株式会社
長谷川香料株式会社 総合研究所
パナックアドバンス株式会社
株式会社日立ICTビジネスサービス
株式会社HIRO ICT研究所
株式会社FOMM
藤森工業株式会社
株式会社べっとぼーど
三菱ふそうトラック・バス株式会社
株式会社ミツミネ電子
有限会社メカノトランスフォーマー
メディサイエンス・エスポア株式会社
ユニキャリア株式会社
※五十音順で掲載

企業36社

〈大学〉

4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム
慶應義塾大学 新川崎先端研究教育連携スクエア

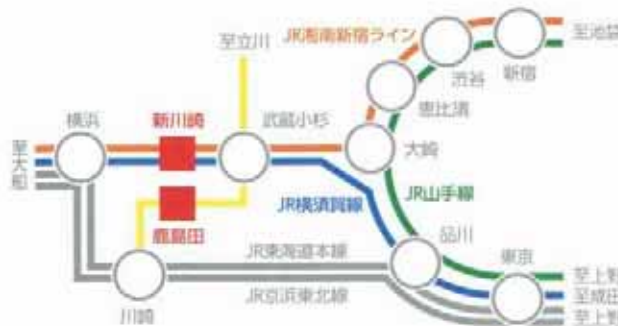
〈関係機関〉

川崎商工会議所
公益財団法人 川崎市産業振興財団

(平成27年3月現在)



新川崎へのアクセス



JR東京駅より新川崎駅まで	約20分
JR横浜駅より新川崎駅まで	約10分
JR川崎駅より鹿島田駅まで	約7分
JR横須賀線・新川崎駅より	徒歩10分
JR南武線・鹿島田駅より	徒歩15分

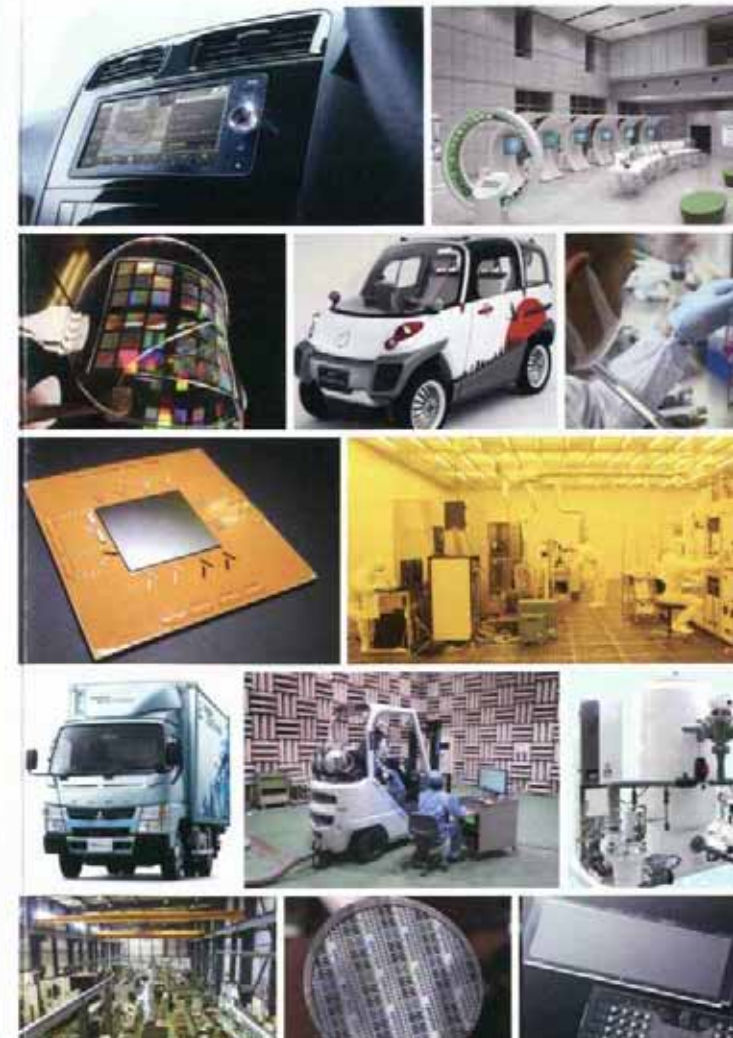


〔事務局〕 川崎市 経済労働局 次世代産業推進室
イノベーション推進担当
TEL: 044-200-2407
E-mail: 28sozo@city.kawasaki.jp
新川崎・創造のモリ Web: <http://www.kawasaki-net.ne.jp/sozo/>



一連携からイノベーションへ

新川崎地区ネットワーク協議会



設立の経緯

新川崎地区は、企業・大学等が多数立地しており、周辺を含めた当地区の就業人口は約1万7,000人にのぼるものと推計されます。

こうした新川崎地区の産業集積とポテンシャルを活かし、産学官連携による新たな産業創出をめざすため、平成24年7月に地区内の企業、大学等によるネットワーク組織「新川崎地区ネットワーク協議会」を設立しました。

協議会は、現在、産学官連携による新しい産業の創造拠点「新川崎・創造のもり」を中心に企業36社、大学、関係機関等から構成されています。(平成27年3月現在)

協議会では、科学・技術の成果等の積極的な情報発信を行っていくとともに、産学連携、産産連携による新たな技術開発など、新川崎発のイノベーションの創出に向けた活動を行っています。

役員



会長 ● 江上 茂樹
三菱ふそうトラック・バス株式会社
人事担当部長 / 人事・総務本部長

新川崎地区は、研究開発型のものづくり企業や大学の研究施設など、高度で豊かな産業基盤を有する発展性の高いエリアです。弊社もこの地区において、全ての人の暮らしにかかわるトラック・バスの開発・生産を行い、特にハイブリッド技術の拠点となっており、地域に根ざした企業として、事業活動を行っています。

さて、当協議会は、新川崎地区というエリアにフォーカスし、創設された企業横断的、分野横断的な連携組織です。協議会では、3つの重点活動領域を掲げ、活動を展開しています。

当会の事業活動としては、この新川崎地区において、企業と企業、企業と大学とのコラボレーションが生まれるような機会を設け、いくつもの多様な有機的な結び付きが形成されることを目指し、交流・連携活動を展開してまいりたいと考えております。

また、エリア内だけでなく、市内工業関係団体、市内立地大学、地域の方々とも交流させていただきながら、新たな連携から得られるシナジー効果により、地域産業の振興と地域コミュニティの発展に貢献してまいりたいと考えております。



副会長 ● 辻 永
株式会社ショップエイ
代表取締役

副会長 ● 丸山 茂夫
東京大学大学院工学系研究科教授
4大学ナノ・マイクロ
ファブリケーションコンソーシアム
総務委員会幹事



幹事 ● 池田 謙伸
株式会社協同インターナショナル 日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役

幹事 ● 折井 靖光
東京基礎研究所
サイエンス&テクノロジー部長
新川崎事業所長



幹事 ● 森 俊介
バイオニア株式会社
総務部長

幹事 ● 田中 文教
慶應義塾大学
新川崎先端研究教育連携スクエア
新川崎Q1タウンキャンパス事務長



新川崎地区ネットワーク協議会

活動



新川崎地区 ネットワーク協議会の 3つの重点活動領域

産産連携・産学連携の推進

会員の探索環境の向上

市民との交流の推進

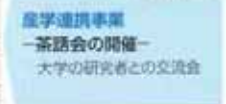
協議会活動 ・ 会員の取組



イベント連携
ー地域貢献ー
地域住民を対象とした
イベントへの協力



会員間交流事業
ー協議会開催ー
会員企業・大学の情報交換
会員企業見学会



情報発信事業
ー協議会活動
の発信ー



新川崎地区の企業・大学立地状況



- A地区** 4.3ha
高度な技術力をもつ製造業の集積
研究開発・ものづくり機能
- B地区** 3.9ha
イニシア新川崎
ステーションスイート
交通広場整備、シンカシティ
商業・業務機能、都市型居住機能
- C地区** 2.0ha
レジデンシャルスクエア
都市型居住機能
- D地区** 0.1ha
「新川崎・創造のもり」
産学連携による研究開発機能
公園等
- E地区** 4.2ha
バイオニア株式会社
産業創出・育成機能
- F地区** 10.1ha
ゴールドクレスト、小学校新設
都市型居住機能

【新川崎A地区 立地企業】



エイヴィエル
ジャパン(株)
(2016年度工学賞)